

実施報告

1. 企画名：エコプロダクツ・エシカル展 in さっぽろ

【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他（NGO 相談コーナー）】

2. 出張者氏名：岡田朋子

3. 協力団体／依頼元団体名：

さっぽろ GreenerWeek 運営協議会

4. 実施予定日時：平成 26 年 2 月 7 日（金） 10：00～19：00（17：30～撤収）

5. 実施場所：ロイトン札幌 3 階ロイトンホール（札幌市中央区北 1 西 1 1）

6. 企画の概要及び対象者

消費者活動や、環境や社会に配慮を求めるグリーン購入、エシカル購入を展開する北海道初の企画であり、その中でのフェアトレードについての相談窓口を NGO 相談員として対応した。1 日の入込は 800 人を越え、一般を対象として幅広く国際協力と NGO について広報や啓蒙をすることができた。

（相談対応：20 名）

7. 所感や効果

フェアトレードに対する関心が高まっていると同時に、エシカルというネーミングが若い女性を中心に多く集める結果になったと思われる。相談者の中にはアフリカやアジアに長くいた人も多く、女性の海外旅行はかなり増えているように感じられると同時に、NGO に対してもしっかりと理解をしている人が多かった。今後も、いろいろな形から NGO に関心をもってもらえるようなイベントに積極的に参加したいと思った。

（一般財団法人 北海道国際交流センター（HIF））



NGO 相談員による出張相談実施報告書

1. 出張相談概要

団体名：特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン

出張者：長村裕・藤崎啓

企画名：国際理解促進・災害救助事業紹介

【形態：講演】

実施日時：2014 年 2 月 10 日（月）10:30-14:00

実施内容：ピースウィンズ・ジャパンの南スーダンでの事業を事例に国際協力の仕事について紹介する。さらに、災害救助犬のデモンストレーションを交え、災害救助犬の育成事業を紹介する。

依頼元：岡山県高梁市立富家小学校（国際理解促進 6 年生 9 名/デモンストレーション全生徒 57 名）

2. 実施内容

① 国際理解促進

国際理解を促進するに当たり、最初にピースウィンズ・ジャパン事業全体の説明を行い、国際協力への関心を喚起。その後、一時帰国中の南スーダン駐在員より、現在の南スーダンの様子、文化、具体的な事業内容、苦労したことなどを写真を見せながら紹介し、質疑応答などを交え国際協力事業の現場の雰囲気伝えた。



② 災害救助犬事業紹介・デモンストレーション

災害救助犬の実際の訓練の様子を実演しながら、救助犬育成事業を紹介。さらに、隠れている要救助者を探し出すデモンストレーションを通じ、訓練の成果を披露。生徒に救助される役としてデモンストレーションに参加してもらい、災害現場での救助犬の意義や有用性を体感してもらうことで、緊急支援に対する生徒の理解を促進した。



3. 所感および効果等

文化の異なる土地で生活や活動をしていくことがいかに大変で、いかに興味深いかを伝えることができた。多くの写真をスライドを使って見てもらうことで、そのイメージを持ってもらうことも同時にでき、国際協力に興味をもつきっかけづくりに大いに貢献できた。（南スーダン駐在員長村（国際理解促進講義担当者））

小学生にとって聞いたことのない国（南スーダン）ということもあり、事前学習をさせたが、それが功を奏して、駐在員の方の話を聞くときは興味を持って真剣に授業に集中していた。事前学習で持ったイメージと実際に写真を見て話を聞いて持ったイメージが異なる場面もあり、子供たちには良い刺激になった。（担任の先生）

子どもたちの知らなかった国の話や災害救助犬と触れ合う機会は子供たちにとって新鮮で知的好奇心をくすぐる良い結果になった。子どもたちの視野が広がる良い機会になった。（校長先生）

児童の感想（学校新聞より原文のまま抜粋）：

「長村さんの話を聞いて井戸をほったり、学校をつくることは大変だなと思いました。紛争は怖いと思うけれどあまり実感がわきません。でもアルミ缶を集めてお金にかえて募金ができると思うのでそういった活動をしたいです。」

「私は犬が人を助けているところ初めて見ました。ハルクがほえて人に知らせることがすごいと思いました。」

なお、別添新聞記事の通り、本出張サービスが朝日新聞岡山版および山陽新聞にて報道された。これにより、同校の児童、教職員、周辺住民にとどまらず上記新聞購読者にも本取り組みが広く周知され、高い広報効果が達成されたものと思料する。

報告者：ピースウィンズ・ジャパン
南スーダン駐在員 長村 裕

平成 26 年 3 月 7 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

(特活)横浜 NGO 連絡会
理事長 石塚 章

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施いたしましたので報告いたします。

記

1. 企画名：(特活)横浜 NGO 連絡会による『よこはま国際フォーラム 2014』における出張サービス
2. 出張者氏名：萩原悦子（横浜 NGO 連絡会の理事も交代で対応）
 - * 企画書では、主担当である小俣典之が出張サービスの相談対応をする予定であったが、出張日の記録的な降雪により本フォーラムの初日が途中中止となるなどのフォーラム開催上の対応業務が急遽発生し出張サービスに対応できなくなったため、代理として副担当である萩原悦子が出張者として出張サービスを実施した。同時に当団体の理事、のべ 6 人も交代で相談対応に協力した。
3. 依頼元／主催等団体名：
 - よこはま国際協力・国際交流プラットフォーム運営委員会
 - よこはま国際フォーラム 2014 プロジェクト

[構成団体]

JICA 横浜／公益財団法人 横浜市国際交流協会／(特活)教育支援協会／
日本赤十字社神奈川県支部／(特活)横浜 NGO 連絡会

 - * 事務局：(特活)横浜 NGO 連絡会
 - * プラットフォーム運営委員会には、横浜市国際政策室も参加
4. 実施予定日時：平成 26 年 2 月 8 日（土）11 時 00 分～12 時 50 分
平成 26 年 2 月 9 日（日）11 時 00 分～17 時 00 分
 - * 企画書では、2 月 8 日（土）は、11 時 00 分～17 時 00 分の実施予定であったが、大雪・暴雪警報の発令により開催イベントが、12 時 50 分をもって中止となったため、出張サービスも同時刻に途中中止とした。なお、2 月 9 日（日）は、予定通りの時間帯で実施した。
5. 実施場所：JICA 横浜 横浜市中区新港 2-3-1
6. 企画の概要
 - 『よこはま国際フォーラム 2014』にて出張サービスを実施した。
 - [よこはま国際フォーラム 2014 の内容]
 - 1) 国際協力や国際交流に関するセミナー・ワークショップの開催（全 51 講座）

<テーマ>

- ①世界の貧困をなくす～MDGs(ミレニアム開発目標)
- ②外国人とともにすみやすいまちをつくる～多文化共生のまちづくり
- ③アフリカと友だちになる

～TICADV(第5回アフリカ開発会議後のつながりづくり)

- ④すべての人の思いをこめて～東日本大震災復興支援

2) ギャラリー展示(1月24日～3月2日)

よこはま国際フォーラム 2014 参加団体の取組みについてのパネル展示。

3) 来場者のための相談コーナーの設置

◆相談対応サービスの実施方法

- ・相談コーナーをセミナー会場に隣接して設置し、相談対応サービスを行った。
- ・相談コーナーでは、外務省 NGO 相談員・JICA 青年海外協力隊 OB 会・JICA シニア海外ボランティア経験を活かす会の相談員が、一堂に会して相談対応し、多様な相談に一元的に応じる体制を実施した。
- ・相談コーナーの設置準備、相談内容に応じた相談対応団体の振り分け、各団体間の業務調整などの運営実務は、(特活)横浜 NGO 連絡会が行った。

◆NGO 相談員制度の広報

フォーラムの前後の1月24日～2月27日に開催されるギャラリー展示会場および2月8日・9日のフォーラム当日に NGO 相談員の広報チラシに加えて、相談コーナーの専用チラシを作成して来場者全員に配布した。また、よこはま国際フォーラム 2014 公式ホームページおよび Facebook ページにおいて NGO 相談員制度の紹介を行った。

7. 相談件数: 11 名

8. 所管および効果等

「よこはま国際フォーラム 2014」は、NGO、JICA、国際機関、その他専門機関などが計 51 の講座を開催するイベントであり、来場者は国際協力に強い関心を持っている。多くの関心層が来場する場で出張サービスを実施し、相談対応をすることは、非常に有意義であると改めて感じた。また、一般来場者はもとより、JICA や国際機関関係者に対しても外務省 NGO 相談員の制度を知ってもらえる有効な機会でもあり、広報面でも有効な場である。

NGO 相談は、会場内の相談コーナー内に設置した(写真1参照)。当団体の NGO 相談員以外に、シニア海外ボランティア経験を活かす会、青年海外協力隊 OB 会の 2 団体が、専門分野の相談業務を行った。相談業務の実施にあたっては、当団体がコーディネイター役を果たした。NGO 相談員ならではの相談分野に加えて、JICA ボランティアに関心のある相談者にシームレスで相談をつなげられる点が有効であり、JICA に関わる諸団体と連携して国際協力に関わる相談の場を創る機会をさらに増やしていければよいと考えている。

相談内容としては、来場者に国際協力への高い関心層が多いだけに NGO への就職、インターン、海外ボランティアについてなどのキャリア相談を中心に、団体マネジメントやプロジェクト運営など高度な相談内容も多かった。

惜しむべくは、1 日目、2 月 8 日は前述の通り、降雪のため途中中止となってしまった。2 日目、2

月9日は通常通り開催されたものの降雪による交通機関の麻痺や遅延により、来場者が例年の3分の2に留まるなどの影響を受けた。天候に恵まれればより多くの相談対応が実施できた可能性もあると思われる。



(写真1)

会場(JICA 横浜4F)に相談コーナーを設置して相談対応をした。



(写真2)

会場内では、多くのセミナーやワークショップが開催された。

以上

2014年3月8日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

認定特定非営利活動法人
アジア日本相互交流センター・ICAN
代表理事 田口 京子

NGO相談員による出張サービス実施のご報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり行いましたので、ここにご報告いたします。

記

1. 企画名：大阪府立芥川高等学校三部合同チャリティコンサート事前学習会

【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他（ ）】

2. 出張者氏名：中村 由実子

3. 主催団体名：大阪府立芥川高等学校和太鼓部

4. 実施日時：2014年2月3日（月）16時30分～17時20分

5. 実施場所：大阪府立芥川高等学校（大阪府高槻市浦堂1丁目12番1号）

6. 参加者数：参加者 100名

7. 企画概要：

大阪府立芥川高等学校の和太鼓部、軽音楽部、ダンス部の三部が合同で開催するチャリティコンサートの事前学習会において、2013年11月にフィリピンに上陸した台風30号に関する講演を行った。災害発生から約3ヵ月が経った被災地の状況や、それに対するNGOの活動、今後の課題について、幣団体職員が撮影した写真を多用しながら説明した。

8. 所感及び効果：

参加した高校生100名は、チャリティコンサート当日に台風被災地の状況について自分たちから来場者に伝えることができるよう、メモを取りながら真剣な眼差しで講演を聞いていた。後日、担当教員から、「講演により、生徒一人ひとりがコンサートの目的を理解し、フィリピンの人々に想いを寄せて練習に臨むことができるようになった。コンサート当日は、生徒たちが自作のポスターや募金箱を持って、被災地の状況や自分たちの想いを来場者に伝えることができた。」との報告があった。この報告からも、事前学習会での講演が、参加した高校生のフィリピン台風被災地への理解を促進し、より強い想いを持ってコンサートを行うことに繋がったと感じている。



以上

2014 年 2 月 28 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人ソムニード
N G O 相談員 大塚 由美子

N G O 相談員による出張サービス実施報告書

N G O 相談員による出張サービスを下記の通り実施しましたので報告致します。

記

1. 企画名：日本ボーイスカウト岐阜県連盟 高山第 2 団 BS 隊への出前講座
【形態：ワークショップ・講演】
2. 出張者氏名：大塚 由美子
3. 依頼元／主催等団体名：日本ボーイスカウト岐阜県連盟 高山第 2 団
4. 実施日時：平成 26 年 2 月 16 日（日）9 時 00 分～12 時 00 分
5. 実施場所：飛騨高山・森のエコハウス
（〒506-0031 岐阜県高山市西之一色町 3 丁目 820-1）
6. 企画の概要
 - （1）企画内容：ボーイスカウト連盟に所属する小学校 5 年生～中学校 3 年生の男子児童・生徒を対象とし国際協力および環境問題について、ゲームなどを交え講座を行う。
 - （2）目的：青少年および指導者に対して、国際理解や地球的課題の推進及び啓発を行う。
 - （3）対象者及び参加人数：ボーイスカウト連盟に所属する小学校 5 年生～中学校 3 年生の男子児童・生徒 11 名、指導者 2 名
7. 実施内容：以下の内容で、ワークショップと講演を行った。
 - （1）国際協力とは：国際協力の種類、世界と日本とのつながり、地域課題を共通課題とするソムニードの取り組み
 - （2）環境保護について：水の循環を考えよう、「水」をキーワードにした活動紹介（インド、ネパール、日本）

8. 所感及び効果：ボーイスカウトに所属する生徒たちということで、環境保護に関する知識はある程度持っていたようだったが、国際協力という分野は初めての子が多く、新鮮さを感じてもらえたようだった。先方の期待するプログラム（環境保護に関して学ぶ）を取り入れながら、国際協力の視点で話げたことは、今後のNGO広報にも応用できると感じた。また、指導者にも国際協力に対して理解を深めてもらえたことは成果であった。



相談員企画型出張サービス実施報告書

1. 1. 企画名：「国際協力入門セミナー powered by PechaKucha
暮らしの中にあるイロイロな国際協力のカタチ
～私たちにできることを一緒に探そう～」
※出張形態：相談対応ブース
2. 出張者：井上理子（（公財）PHD協会職員）
3. 実施日：2014年2月15日（土）14：30～17：30
4. 場所：JICA 関西 ブリーフィング室
（兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-2）
5. 対象者：兵庫県内を中心とする国際協力に関心を持つ一般市民
6. 実施報告：（公財）兵庫県国際交流協会と JICA 関西で年2回程度、一般県民を対象とした国際協力入門セミナーを開催しており、今回はそのセミナーの一つに参加し、相談対応業務を行った。参加団体は兵庫県内で国際協力分野において活動する団体・企業等 14 組を招き、それぞれの活動紹介と「市民のみなさんが国内・生活の中でできる国際協力」についてペチャクチャ形式でプレゼンを行い、各団体のプレゼンが終わった休憩の時間にブースにて相談対応を行った。参加者は幅広い年齢層の方が来られており、学生から教員、コンサルタントまで多くの方が来場した。相談対応としてはボランティアに関すること、また教員の方からは出張サービスの利用について具体的な質問があった。
上記のプレゼンの休憩の時間に相談員ブースに来ていただくということだったので、時間的制約があったため必要に応じて、会の終了後に個別での相談も行った。しかしながら、相談員チラシの配布を積極的に行い、関西圏への周知徹底には寄与できたと思われる。今後は実際の講師派遣や相談員ブース開催などの実際の活用につなげていきたい。

7. 添付画像：別紙に当日の様子を 2 枚添付



①相談対応の様子



②参加団体出展ブースの様子

相談員企画型出張サービス実施報告書

1. 1. 企画名：「加古川地域の自治会でのネパールを中心とした講演会」

※出張形態：講演

2. 出張者：坂西卓郎（（公財）PHD協会職員）

3. 実施日：2014年2月16日（日）13：30～15：30

4. 場所：東神吉町自治会 集会所
（加古川市東神吉町砂部 集会所）

5. 対象者：加古川ベルタウン銀鈴会のメンバー及び地域住民 29名

6. 実施報告：同地域に当会のネパールからの研修生ブレム・ドジュ・ラマさんが1年間ホームステイをさせていただいているという縁で興味をもたれた地域の方からご連絡をいただき、NGO相談員として国際協力についての講演を行うこととなった。

講演内容はとしては地域の方向けに国際協力や国際交流について丁寧に説明を行った。対象者の年齢柄、途上国での生活体験はなくても、援助を必要としている地域の生活が自分たちの子どもの頃の生活に近いということもあり、講演中から活発な質問をいただいた。またNGO相談員についても、外務省が国内でこのような活動をしているとは知らなかったという意見が相次ぎ、一定の認知度の向上には寄与したと思われる。

同地域は都市部ではあるが、まだ昔ながらのコミュニティを残しており、かつ比較的に生活にもゆとりがあることも影響してか、国際協力への関心が大変強かった。曰く「現役の頃は忙しくてできなかったけど、今なら多少の時間とお金もあるので、難しいことではなく、私でもできることがあればやってみたい」ということだった。

本制度の趣旨からすれば、高齢者層よりは将来のある世代への啓発が望ましいように感じるが、実際に国際協力の担い手ということを考えると上記のようにある程度のゆとりがある世代の力を活用することも有意義なものと言えるように感じた。実際に当会のスタディツアーの参加者も60歳以上の参加者比率が全体の半分以上を越えるなど、シルバー世代の活力を現場レベルで実感している。講演の最後では、今日の対象者からその子ども世代、孫世代に伝播していくことをお願いした。今後の地域での広がりを期待したい。

7. 添付画像：別紙に当日の様子を3枚添付



「加古川地域の自治会でのネパールを中心とした講演会」の様子①

加古川ベルタウン銀鈴会に国際協力及び NGO 相談員制度についての説明をしているところ。



「加古川地域の自治会でのネパールを中心とした講演会」の様子②、③

②当会のネパールの研修生も交えて国際協力について解説

③パワーポイントを用いて説明中

相談員企画型出張サービス実施報告書

1. 企画名：「但馬農業高校での国際協力についての意見交換会及び交流」
※出張形態：講演
2. 出張者：今里拓哉（（公財）PHD協会職員）
3. 実施日：2014年2月21日（金）13:00～14:00
4. 場所：兵庫県立但馬農業高校
（兵庫県養父市八鹿町高柳300-1）
5. 対象者：但馬農業高校 生徒会と農業クラブ 計10名
6. 実施報告：但馬農業高校の会議室に招かれ、生徒会の司会進行のもと、校長先生の挨拶の後、PHD職員から国際協力とPHDの活動内容について説明、PHD研修生からミャンマー・ネパール・インドネシアの農業事情についてをスライドを用いて生徒たちに紹介した。質疑応答の時間には生徒たちから多数の質問があがり、少人数ならではの意見の行きかう交流となった。
7. 添付画像：当日の様子を2枚添付



PHD職員と研修生によるネパール農村の農事情の説明の様子



但馬農業高校の生徒会長による質疑

相談員企画型出張サービス実施報告書

1. 企画名：「関西 NGO 大学での国際協力の講演及び相談員ブース出展」
※出張形態：講演
2. 出張者：坂西卓郎（（公財）PHD協会職員）
3. 実施日：2014年2月22日（土）19：30～
2月23日（日）15：00
4. 場所：小林聖心女子学院ロザリオヒル
（兵庫県宝塚市塔の町 3-113）
5. 対象者：関西 NGO 大学の受講者及び運営委員 42名
6. 実施報告：関西 NGO 大学は今年で 27 年目となる連続講座で、毎年 9 月から翌年 2 月の半年間に、一ヶ月に 1 回、土日に開講している 1 泊 2 日の市民向け講座である。同大学では参加者主体で NGO の担い手を育てることを目的に掲げ、実際に 27 年の歴史の中で多くの NGO 職員や ODA に関わる人材を輩出してきた実績を持つ。今回は同大学の最終回で NGO の担い手育成の講演を PHD 協会の坂西が行い、その後、関西 NGO 協議会の榎木と坂西で相談員ブースを実施してきた。
講演内容はオピニオン・リーダーになるような人たちの活動だけが社会を変えるのではなく、一人一人のアクションが社会を変える可能性があることを坂西の人生を参考に提示した。
相談員ブースは約 2 時間行い相談を受けた。内容としては「南米の鉱山開発の労働者を支援しているが、行き詰まっている。どうしたらよいか」、「生協と NGO はどのように連携できるのか」など、実践に即したものが多く、それぞれの相談には時間をかけて対応した。
今回の出張サービスは「国際協力の担い手育成」という本制度の趣旨に叶ったものであり、非常に有意義なものであったと感じている。加えて同大学の修了生は今後関西地域を中心に様々な形で国際協力に関わることが予想されるので、NGO 相談員制度というものを知ってもらえたことも次に繋がると思われる。以上の理由から今後も継続した相談員ブースの出展が望まれる。
7. 添付画像：別紙に当日の様子を 3 枚添付



「関西 NGO 大学での国際協力の講演及び相談員ブース出展」の様子①

関西 NGO 協議会の榛木相談員が関西 NGO 大学の受講生に NGO 相談員制度についての説明をしているところ。



「関西 NGO 大学での国際協力の講演及び相談員ブース出展」の様子②、③
相談員 2 名でブース出展を行い、相談に対応している様子

平成 26 年 2 月 18 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

(特活) 関西国際交流団体協議会



NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり行いましたので、ここに御報告いたします。

1. 企画名：「第 21 回ワン・ワールド・フェスティバル」での出張相談

2. 出張者氏名

(認定特活) アジア日本相互交流センター(ICAN)	中村由実子
(特活) AMDA 社会開発機構(AMDA Minds)	山上正道
(特活) 関西国際交流団体協議会(KNA)	西保彦
(特活) 関西 NGO 協議会(KNC)	奥谷充代
(認定特活) 国際協力 NGO センター(JANIC)	津島由美子
(特活) ソムニード	宮下和佳
(特活) 日本国際ボランティアセンター(JVC)	佐伯美苗
(公財) PHD 協会(PHD)	坂西卓郎
(認定特活) ピースウィンズ・ジャパン(PWJ)	船山静夏

4. 主催等団体名：主催「ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会」

5. 実施予定日時：平成 26 年 2 月 1 日(土)・2 日(日)
両日共 10 時 00 分～17 時 00 分

6. 実施場所：大阪国際交流センター（大阪市天王寺区上本町 8-2-6）

7. 実施報告

① 実施内容

NGO・NPO の祭典「ワン・ワールド・フェスティバル」開催に於いて、国際交流・協力活動に関心のある方々が多数来場される会場にて、NGO 相談員 9 団体（今回新規に広島よりピースウィンズ・ジャパン賛同）による相談・質問の特設相談対応ブースを設置し、来場者の個別相談に応じ、各種情報提供を実施した。

関西の NGO 相談員 3 団体に加えて全国の地域(関東・中部・岡山・広島)からも相談員が参加し、相談ブースではタイムテーブルを組み、関西と他地域の団体でペア構成にて対応をおこない、相談ニーズや専門分野の内容に応じて各地域の担当者が対応できるシフト制を実施した。

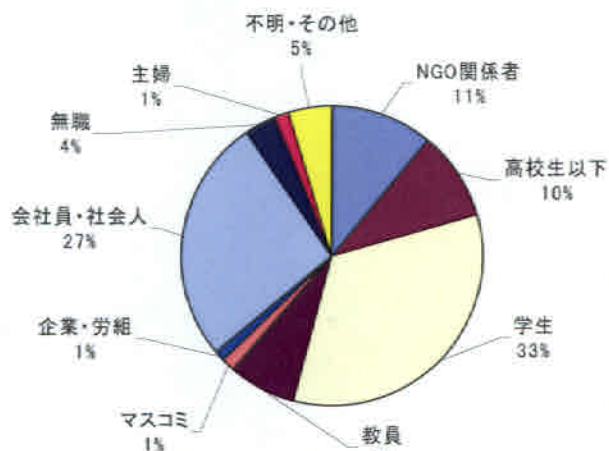
相談ブースでは、来場者に NGO 相談員制度の紹介をすると同時に各相談員自身の団体活動案内やイベントチラシ等を配架するラックを設置、来場者に活動内容・イベント案内などの情報提供もおこなった。相談ブースのパネルには外務省作成ポスターに加え、当協議会作成の NGO 相談案内販促ポスターを掲示し、NGO 相談員制度の告知普及に努めた。

② イベント来場者数：2 日間で約 17,500 名（昨年 16,500 名）

③ 相談件数：83 件（昨年 80 件）

【相談者の分類】

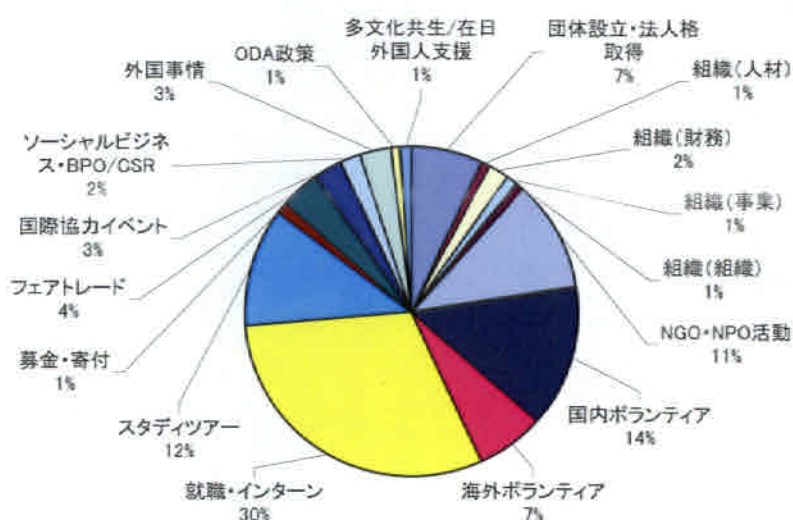
学生(大学・大学院)	33.7%
会社員・社会人	26.5%
NGO/NPO 関係者	10.8%
高校生以下	9.6%
教員	7.2%
無職・退職者	3.6%
企業・労組	1.2%
マスコミ	1.2%
主婦	1.2%
その他・不明	4.8%



④ 相談内容

【相談内容別割合】

就職・インターン	30.4%
国内ボランティア	13.7%
スタディツアー	11.8%
NGO・NPO 活動	10.8%
海外ボランティア	6.9%
団体設立	6.9%
フェアトレード	3.9%
国際協カイベント	2.9%
外国事情	2.9%
組織(財務)	2.0%
ソーシャルビジネス・BOP	2.0%
組織(他)・寄付・ODA・多文化共生など	各 1.0%



【主な相談内容例】

1) 就職・インターンについて

- ・ NGO に就職する際に求められるものは何か知りたい
- ・ 就活中で社会貢献の活動をしている企業情報を知りたい
- ・ ガバナンス系 NGO 機関で働きたいので求人情報が欲しい
- ・ 企業に就職後に国際協力機関に就職することは可能か？
- ・ 国際機関に就職するには大学院卒は必要か？
- ・ 外国籍であるが日本の NGO・NPO で働けるか？

2) ボランティア活動について

- ・ 高校生でできるボランティア活動は何があるのか知りたい
- ・ インドでのボランティア情報の入手方法が知りたい
- ・ 在日外国人と接するボランティア活動の情報が知りたい
- ・ 神戸で週末(土日)に活動するボランティア団体を探している
- ・ 教員をしており、子供と接する海外ボランティアを探している
- ・ プロボノ(経理)を探している。情報はどこで入手するのか？

3) スタディツアーについて

- ・ スタディツアーでは、具体的にどのような事をするのか？
- ・ 海外の難民支援に関するスタディツアー情報が知りたい
- ・ 企業の社員をスタディツアーに参加させたいので情報が欲しい
- ・ 大学生で企画した海外研修ツアーを作りたいので教えて欲しい
- ・ 色々なスタディツアーがあるが安全面は確かなのか？

4) NGO・NPO 活動について

- ・ 高校生で NGO 団体が作れるか？可能なら方法を教えて欲しい
- ・ NGO や NPO はどのようなこと事をしているのか知りたい
- ・ NGO の活動に参加したいが、どの様に団体を選べば良いのか
- ・ 日中や日韓の交流事業を個人で実施できる場所を探している
- ・ 在校生(高校)に NGO 活動の話をして頂く講師を派遣して欲しい

5) その他

- ・ ネパールの医療機器輸出入でファンドライジングする方法は？
- ・ ミャンマーの難民支援活動をしているが、色々なアドバイスが欲しいので、どこに尋ねれば良いか知りたい
- ・ 南北問題は、なぜ起きるのか教えて欲しい
- ・ 名古屋で東アフリカのグッズを仕入れて販売したい。東アフリカに関わっている団体の情報が知りたい
- ・ NGO・NPO の活動報告で使用した情報の管理は、どの様になっているのか？

8. 交通費・宿泊費精算：各参加団体から請求のこと

9. 全体的な所感

今回で第 21 回目の開催となり、来場者は昨年度より約 1,000 名増加した。その中でも若者(高校生・大学生・社会人)並びに外国人留学生や在住外国人等の参加が非常に目立った。この若者の来場者増加傾向は一昨年からはあるが国際交流イベントとして本年度は在住外国人および留学生への参加促進に注力(諸外国語版情報誌へのイベント掲載を実施)した結果であると思われる。

これまで NGO・NPO 活動を広く一般社会に公示することによる市民への意識向上を意図してきたがグローバル社会に於いて急速に増加する諸外国人の流入に際して、今後はマルチカルチャーな社会の中で国籍の如何に関係なく共生社会での NGO・NPO の活動をよりグローバルに推進するために、このワン・ワールド・フェスティバルを通じて次世代に繋げてゆく「場」の提供を創っていると感じた。

上記、相談データ統計により相談ブースに訪れる相談者の傾向は、やはり学生が 33.7%と一番多く、次いで社会人が 26.5%であった。この社会人も 20 歳代～30 歳代の方が多く学生と近い年代層である。相談内容としては「就職・インターン」が 30.4%を占め、ここ数年同様の傾向が続いている。しかし、具体的な内容において、以前は NGO・NPO の求人情報の入手方法を問われる相談が主であったが、今回の相談対応では NGO・NPO に就くために必要なものは何か(経験・資格・技術等)を相談される傾向が見うけられた。社会人に際しても離職後に NGO 機関に就職するには「大学院を卒業しないといけなのか?」、「NGO 組織でのインターン経験は必要か?」などの就職にあたり準備するための具体的アドバイスを求める相談に変化して来た傾向にある。また、就職先として同機関を考える一方、自分達で団体組織を作り、自ら望む活動内容を実践したいと言う相談もあり、これは社会人のみならず高校生や大学生のカテゴリーからもあがっている内容であった。

NGO 相談員のブースでは従来外務省作成ポスター・チラシの掲示が中心であったが来場者に気軽に相談に応じてもらう為に手作りのイラスト入り簡易ポスター(相談ブース風景写真③④参照)を作成して掲示をおこなった。若者や外国人には着目され、相談への誘導ツールとして、良い効果をもたらした。また、相談ブース横には各参加団体の情報誌やチラシを配架するスタンドを用意し、多様な情報提供を展開した。特に「国際協力団体リスト(JANIC 提供)」は好評であった。

相談員ブースでのシフト体制(関西の団体と全国の団体が共同して相談に応じる体制)は、他地域の相談員の話聞いて相談員の相互の力量形成にもつながり、また、来場された相談者にとっても幅広い情報から適切なアドバイス(例として関東出身者で関西の大学に通う学生から関東での就職相談など)を受けることができるため、他地域からの参加意義が非常に高いので、この制度は今後も継続して実施したいと考える。

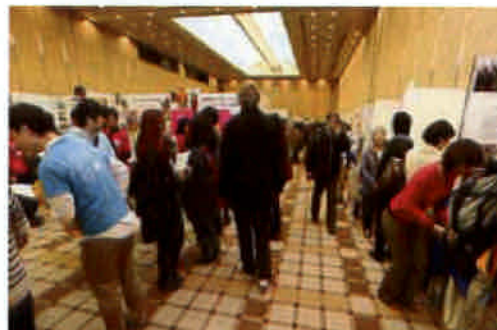
10. NGO 相談員出張相談 当日写真 2014 年 2 月 1 日(土)・2 日(日)

会場:団体展示ブース

①



②



NGO 相談ブース風景

③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



平成 26 年 3 月 6 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
海外事業部 田中 一弘

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

NGO 相談員として出張サービスを実施したので、内容をご報告いたします。

記

1. 企画名： 第 5 回国際開発プランニングコンテスト
2. 形態： セミナー
3. 出張者氏名： 田中 一弘
4. 依頼元／主催団体名等： IDPC (International Development for Progress and Change)

「国際開発を志す若者の為のプラットフォームとなる」ことを目指して、必要な能力や視座を学ぶ機会を提供する学生団体

5. 実施日時： 平成 26 年 2 月 21 日(金)13:00～19:00
6. 実施場所： 大阪国際ユースホステル(大阪府高石市羽衣公園丁)
7. 実施の内容：

「第 5 回国際開発プランニングコンテスト」は、4 日間にわたり、参加者の学生 18 名が 5 つのグループに分かれて、バングラデシュにおいて NGO のスタッフであることを想定し、プロジェクトを立案するというものである。出張者は、最終日に各グループのプレゼンテーションに審査員(3 人のうちの 1 人)として出席し、各プロジェクトの内容を実務者の視点からコメント、審査した。審査員の紹介の際に NGO 相談員の制度を紹介するとともに、コメントや審査の講評の際に、ODA や NGO の事業ならびに実際のプロジェクトプランニングの場で重要な視点についても説明した。

8. 所感・効果：

参加者は国際開発に高い関心を持ち、途上国の現状や支援のあり方などについて積極的に学ぼうとする大学生(17 名)および高校生(1 名)であった。こうした国際協力について高い意識を持ち、将来国際協力を携わることを目指す学生に対して、実際のプロジェクトの立案の経験から、ニーズの把握や問題分析、アプローチの選択などについて様々な視点を提供できた。また、プロジェクトの立案だけでなく、今後のキャリア形成や大学院への留学、さらには ODA や NGO 活動についても説明することができ、有効な出張サービスとなったものとする。なお、本出張サービスは、2 月 1 日～2 日のワンワールドフェスティバル(大阪)への出張サービスを通じて、上記主催団体から依頼を受けて実現したものであり、出張サービスから次の出張サービスへ展開した案件である。

以上

当日の写真



NGO 相談員についての説明



学生(参加者)による発表



審査員による質疑応答



審査員(相談員)からの参加者へのコメント

平成 26 年 3 月 7 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク

代表理事 竹内 よし子



NGO 相談員による出張サービス実施報告

いつもお世話になっております。

さて、NGO 相談員による出張サービスを下記の通り実施しましたのでご報告申し上げます。

記

1. 企画名：「フェアトレードによる途上国支援を考える」

【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・NGO 相談員デスク】

出張者氏名：竹内 よし子

2. 依頼元／主催等団体名：愛媛県立西条高等学校

3. 実施日時：平成 26 年 2 月 17 日（月）13 時 40 分～14 時 30 分

4. 実施場所：愛媛県西条市明屋敷 234 番地 愛媛県立西条高等学校

5. 参加人数（受講者数）：一年生 40 名

6. 実施内容および所感、効果：

経済のグローバル化に伴う世界貿易体制の中で、フェアトレードの意義や可能性、また課題について学び、フェアトレードを通して発展途上国の支援のあり方について考えることができるよう、具体的にモザンビークでの取組みを紹介した。

商業科であったこともあり、先進国に暮らす私たちの消費行動とのつながりについて考えるという視点を盛り込んで講演をしたことで、国際協力活動や NGO に少しでも関心を持ってもらえたと思われる。

【相談件数】 2 件

【主な対応内容】

- ① 相談内容 モザンビーク・バナナペーパーがどのように作られて「フェアトレード商品」となっているのか、具体的に知りたい。

対応 モザンビークとブラジルの NGO が協働して商品開発をしたこと、バナナそのものの生育に沿った収穫・加工が行われおり、地域循環型事業になっていること、商品価格の人件費・材料費・運営費のほかに地域課題解決のためコミュニティファンドにも資金が活用されている、といった内容を紹介し、「フェアトレード」「コミュニティトレード」の具体的なイメージがつかめるよう説明した。また、高校生のアイデアだったら、このバナナペーパーを使ってどのような商品開発が考えられるか投げかけて、グループで意見を出してもらうなど、意見交換する機会を設けた。

② **相談内容** 学校内でどのような取り組みができるだろうか？

対応 他校の取組みを数件紹介した。消費者市民教育の一環として取り組んだ高校では、文化祭で学んだことを発表し、フェアトレード応援商品の開発を行って販売した。別の高校では、取組みを動画にまとめて広報したり、スタンドアアップキャンペーンに参加したりするなど、楽しみながら参加していることを紹介した。



(講演の様子)

以上

平成 26 年 3 月 7 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク

代表理事 竹内 よし子



NGO 相談員による出張サービス実施報告

いつもお世話になっております。

さて、NGO 相談員による出張サービスを下記の通り実施しましたのでご報告申し上げます。

記

1. 企画名：「国際理解教育をととして地球市民としての素地を育む」
【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・NGO 相談員デスク】
出張者氏名：竹内 よし子
2. 依頼元／主催等団体名：高知県立高知南高等学校
3. 実施日時：平成 26 年 2 月 18 日（火）14：25～16：15
4. 実施場所：高知県高知市棧橋通 6 丁目 2 番 1 号 高知県立高知南高等学校 1 階大会議室
5. 参加人数（受講者数）：国際科 1 年生 31 名
6. 実施内容および所感、効果：

生徒が、諸外国の現状を知り、自分たちの生活を見直す。(2) 異文化について学び、視野を広げる。多角的な物の見方ができるようになる。(3) 地球的課題の現状について知る。自分たちに何ができるか考える。(4) 海外で活躍している方の経験を聞き、進路に活かす、といったことをねらいとして講演とワークショップを行った。国際コースの中で、将来国際協力に関わる仕事に就きたいという意識を持った高校生から、講演後に連絡をもらうなど、興味関心を深めることができたと思われる。

[相談件数] 3 件

[主な対応内容]

- ① 相談内容 フェアトレード商品とは？わかりにくいので、分かり易く言うとうどうなのか、教えて欲しい。
対応 「格差をなくすために取り組む方法のひとつ」と説明した。
- ② 相談内容 文化祭などで高校のイベントなどで工夫できそうなことは、何があるだろうか？
対応 小・中学校ではまだ難しいが、高校生では、実際にバザーで販売するとか、商品について説明しながらフェアトレードについて理解してもらうよう呼びかけるとか、また、スタンドアップキャンペーンに参加するなど、オリジナルアイデアを盛り込みながらやってみると楽しく関われると紹介した。

③ **相談内容** どうやってモザンビークに行くのか？モザンビークへのスタディツアーは実施しているか？

対応 正式な形で募集はしていないが、今までもインターンやスタッフ、会員で、大学生も含めて一緒に行った経験がある。四国内のNGOで実際にスタディツアーを実施しているところもあるので、具体的に行ってみたい国や、関わってみたい国際協力活動の内容、時期など希望があれば、連絡・相談してきてもらいたい、と伝え、NGO相談員のチラシを配布し、相談員対応が可能であることも伝えた。



(日本のODA政策・NGO相談員制度について説明する)



(バナナペーパーを用いたフェアトレード商品開発にチャレンジ)

以上

(特活)NGO 福岡ネットワーク:NGO 出張相談報告書(平成 26 年 2 月)

団体名:(特活)NGO 福岡ネットワーク

出張サービス企画名:第 2 回ユメトーク@九州

実施日時:平成 26 年 2 月 15 日(土)13:00~17:40

場所:株式会社 電気ビル 共創館カンファレンス 3F 大会議室 A

(ア) 実施内容

本企画は、30 業種 30 名の社会人を招き、仕事内容や仕事に対する思いなどを話すことで、大学 1、2 年生という早い時期から将来について考えてもらうことを目的とした大学生主体のイベントである。当団体は、団体の活動紹介や、NGO や国際協力で働きかけ、やりがい、働くことへの思いなどを話し、NGO と国際協力の仕事への理解を深めてもらうことを目的として参加をした。

(イ) 集客人数

参加者数:100 人

所感及び効果等

当団体は NGO 相談員として日頃から大学生からの相談に応じている。なかには「国際協力を仕事にしたい」「NGO で働きたい」という相談もあり、一般企業での就職ではなく、国際協力や社会貢献活動を仕事にしたいという声が多く聞かれるようになったと実感している。そうしたことから今回のような企画においても大学生が話を聞きたい業界のトップ 30 に NGO/NPO がランクインしており、関心の高さや盛り上がりは当団体の周囲に関係する大学生だけではないことを伺うことができた。

イベントは福岡で活躍する社長 2 名のトーク・セッションと 30 業種の社会人とのグループトーク、フリートークの 3 部構成で行われた。グループトークでは、1 つの会社・社会人に対して 4~5 名の学生が取り囲んで 30 分間話をするというセッションを 2 回行った。当団体に話を聞きに来た学生はやはり社会貢献やボランティア活動に関心がある学生が多く、すでにサークルで社会貢献に取り組んでいるという学生も見ることができた。

メディアやインターネットの情報から NGO の活動についてのある程度の知識を持ち合わせている学生からは、ソーシャルビジネスや社会的企業など、ビジネスモデルとして成功しつつ社会課題解決を図るアクターを引き合いに出しつつ、「なぜ収入も少ないのに NGO で働くのか」という趣旨の質問が挙げられた。これは NGO/NPO の存在や活動は広く伝わっていても、その役割や存在意義が社会に正しく伝わっていないことを意味していると考えられる。その場では、「NGO/NPO は課題解決を最大の目的とするのではなく、市民を問題解決の参加者にしていくための仕組みであり、その役割に共感しているからである」ということで理解をしてもらうことができたが、単に収入や組織の持続可能性だけで NGO/NPO が選択肢から除外されることを防ぐための取り組みも必要であることを実感させられた。



(特活)NGO 福岡ネットワーク:NGO 出張相談報告書(平成 26 年 2 月)

団体名:(特活)NGO 福岡ネットワーク

出張サービス企画名:ふくおか NPO・ボランティアふえすた 2014『トークセッション「これからの NPO に必要なチカラ」～魅力的な人を巻き込むために～』

実施日時:平成 26 年 2 月 15 日(土) 13 時 30 分～16 時 30 分

場所:福岡市役所 1 階ロビー内多目的スペース(福岡市中央区天神 1 丁目 8 番 1 号)

(ア) 実施内容

NPO を対象に、学生、ビジネスパーソン、主婦などの様々な立場の人たちが「NPO に関わるきっかけ」や「活動を続けるモチベーション」などを語り、より多くの支援者を上手に巻き込んでいくコツを考えるトークセッションを行いました。多くの支援者を巻き込んで活動する福岡の NGO として、国際協力とボランティア、当団体のボランティアに対する考え方、具体的な巻き込み方などの紹介を行いました。

(イ) 集客人数

参加者数:40～50 人

(ウ) 所感及び効果等

参加者は NPO ですでに活動している人たちでした。行政や企業の参加者や、今から何か関わって行きたいという人まで本当に様々な立場の人たちが参加しており、定員を超えて多くの集客を得ることが出来ました。当団体は国際協力 NGO という立場で、NGO ならではの事例紹介を行いました。どの団体もボランティア確保や団体の主力メンバーの人材確保等には共通の悩みがあるようでした。

今回のトークセッションでは、NGO や NPO の活動に巻き込まれた(参加した)側に対して、どうして巻き込まれたのか、また、巻き込んだ側(NGO や NPO)はどのような工夫をしながら実際に巻き込んで行ったのか等、それぞれが具体的な事例の中から紹介を行いました。参加者の団体はそれぞれ活動の違いはあるものの、「大変分かり易く、参考になりました」という声を聞くことが出来ました。後半ではテーマごとに分かれ、ボランティアについての悩みや疑問等についてそれぞれのグループで活発に意見交換を行いました。

当団体は国際協力 NGO ですが、国内で活動する NPO とも共通する悩みがあり、その悩みや上手にいったノウハウなどを共有することができ、福岡の NGO/NPO セクターの学びの機会提供になったことを強く感じました。



トークセッションの様子



グループワークの様子

(写真:福岡市NPO・ボランティア交流センター提供)

平成 26 年 3 月 6 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

NPO 法人 沖縄 NGO センター 団体印

NGO 相談員による出張サービス実施の企画について

NGO 相談員による出張サービスを下記のとおり企画し、提案いたしますので御承認願います。

記

1. 企画名：沖縄県立八重山商工高校出前講座
2. 実施日時：平成 26 年 2 月 27 日（木）9：55～11：25
3. 実施場所：沖縄県立八重山商工高校（石垣市字登野城）
4. 活動内容

沖縄県立八重山商工高校商業科観光コースの 2 年生を対象に国際理解ワークショップを行い、国際社会とのつながりを考え、視野を広げるとともに石垣島の魅力を再発見できる機会につなげることを目的に授業を実施した。異文化理解体験ワークショップを行い、異文化に接したときの行動を考えた。あわせて、教員へ開発教育の情報提供を行った。

5. 参加者人数：20 人
6. 所感及び感想

八重山商工高校商業科観光コースの 2 年生を対象にワークショップを行った。台湾への修学旅行の事前学習の一環で実施したが、異文化に接した時の状況をシミュレーションゲームで体験してもらい、異文化に接したときの行動を考えてもらった。生徒たちははじめは戸惑っていたものの、普段の生活の中で生じる場面も想定してもらいながら、異なる文化との向き合い方を考えていた。事前研修の中では、石垣と台湾の共通点を探しているようだったが、実際に台湾で起こりうる異文化との接触を前に、自らの行動を考える機会になったと思われる。



シミュレーションゲームの様子。ルールをグループで確認しています。



ゲームを終えて振り返り。各自、自分の考えをまとめています。その後、グループ共有を行いました。